

独立行政法人国立美術館  
**京都国立近代美術館概要**

令和5年

Independent Administrative Institution  
National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Kyoto

**2023**

M O M A K

## 目次

I	概要	3
	運営方針	3
	沿革	4
	略年譜	5
II	組織	6
	組織図	6
	職員数	6
	評議員	6
III	予算	6
IV	展示・研究活動	7
	概説	7
	展覧会計画	8
	展覧会実績	9-10
	年度別入館者数	10
V	所蔵美術作品等	11
	美術作品及び美術資料の収集・保管	11-13
	図書資料ほかの収集	13
VI	教育普及事業等	14
	学習支援プログラム	14
	普及プログラム	14
	刊行物等	15
	サポート・プログラム	15
VII	施設	16
	土地	16
	建物	16
	建物の概要	17
VIII	案内	18

M O M A K

# I 概要

## 運営方針

近代美術館に課せられた役割は、近代から現代につながる美術の歴史を整理・検討し、それを通して美術ひいては社会の将来の発展のために、さまざまな活動を計画・実行すること、さらにはそのような活動のプラットフォームを提供することにある。その活動の分野は、絵画や彫刻のみならず、版画、各種工芸、デザイン、建築、写真から映像にいたるまで幅広く、互いに有機的に連携している。そしてその活動の範囲は、特定の地域や国内にとどまるものではなく、広く世界に開かれていかなければならない。

このような理念を基礎とした、当館の運営方針は次のとおりである。すなわち、美術館発足時より京都市からの要望に応えつつ、工芸分野に重点を置いてきた伝統を継承すること。日本の近代美術史について、全体の流れを踏まえつつも、京都さらには西日本における芸術活動に注目し、新たな視座の発見・紹介に努めること。近代を中心として、さまざまな芸術ジャンルを横断的に研究し、その成果を公開することを通して、現代におけるより豊かな芸術のあり方に寄与すること。国内外の美術とその相互交流に着目し、芸術に関する広い国際的視野を提供すること。以上の方針に基づき、企画展及びコレクション展などの展覧会活動、美術作品・資料及び図書資料などの収集活動、さらには講演会やワークショップなどさまざまな学習支援・普及活動を行っている。加えて、学術的・美術的価値を有する作品・資料の積極的な寄贈受入や作品・資料の定期的な修復を通じて、収蔵作品・資料のさらなる整備や公開・活用に努めている。



撮影:四方邦熙

## 沿革

1952(昭和27)年、国立近代美術館が東京に開設された。そして翌1953(昭和28)年には、第二次世界大戦中にフランス政府によって接収されていた松方コレクションの寄贈返還が具体化する運びとなった。この機に、京都市は同コレクションを収蔵・公開する美術館の誘致を目指したが、フランス政府が当該施設の首都設置をコレクション返還の条件としたため、実現が叶わなかった。そこで、地元での文化施設建設を望む京都市は、計画を国立近代美術館の誘致へと変更し、その一步として国立近代美術館の京都分館設置を文部大臣に要望した。しかし、賛意は得られたものの、開館直後の国立近代美術館の整備・充実が優先されるとし、分館設置については後日改めて検討するとの結論に達した。

1962(昭和37)年、国立近代美術館の増改築工事がほぼ完了の見通しとなった時点で、ようやく分館設置に必要な諸経費の予算要求が認められ、分館設置が正式に決定した。これに伴い、京都市は、岡崎公園内にある勧業館別館の1・2階を改修の上、国に譲渡することになった。さらに文部省設置法施行規則の改正が行われて、1963(昭和38)年3月1日、国立近代美術館京都分館が発足し、初代分館長として今泉篤男が就任した。そして同年4月27日に、開館展「現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向」を開催する運びとなった。

1967(昭和42)年6月には、念願が叶い、京都国立近代美術館として独立した。それに伴い、当初より指摘されていた、1937(昭和12)年建設の旧勧業館別館を転用した美術館建物の不備がより一層大きな問題となり、新たな美術館建物建設の必要性が痛感されることになった。

このような状況を背景として、1972(昭和47)年に新館建設のための庁舎新営調査費が認められ、翌1973(昭和48)年に開かれた基本設計準備委員会において、設計を楳文彦氏に依頼することが決定した。また新館建設地については、複数の候補地が諸事情により不可能となったこともあり、現在地での建て替えとし、次の3点を基本方針の柱として建設準備が進められることになった。(1) 美術館運営にあたって機能的であること、(2) 美術館が立地する、主要な都市文化施設が集中し風致地区にも指定されている岡崎地区の環境との調和に配慮すること、(3) スマートな建築物であること。

1984(昭和59)年1月、展覧会「現代美術における写真—1970年代の美術を中心として」を最後に旧館での展覧会事業をすべて終了した。建設地の発掘調査及び土地の所管換などを行ったのち、旧館の解体工事を含む2年8ヶ月の工期を経て、1986(昭和61)年9月15日に、総工費約50億円、延べ床面積約10,000m<sup>2</sup>の規模を持つ新館が竣工した。

1986(昭和61)年10月25日に新館開館記念竣工式を挙行し、翌日10月26日から新館開館記念特別展「京都の日本画 1910～1930」を開催した。新館開館に併せて、これも念願であった常設展示場を開設し、「常設展—近代の美術・工芸・写真」を行うことになった。

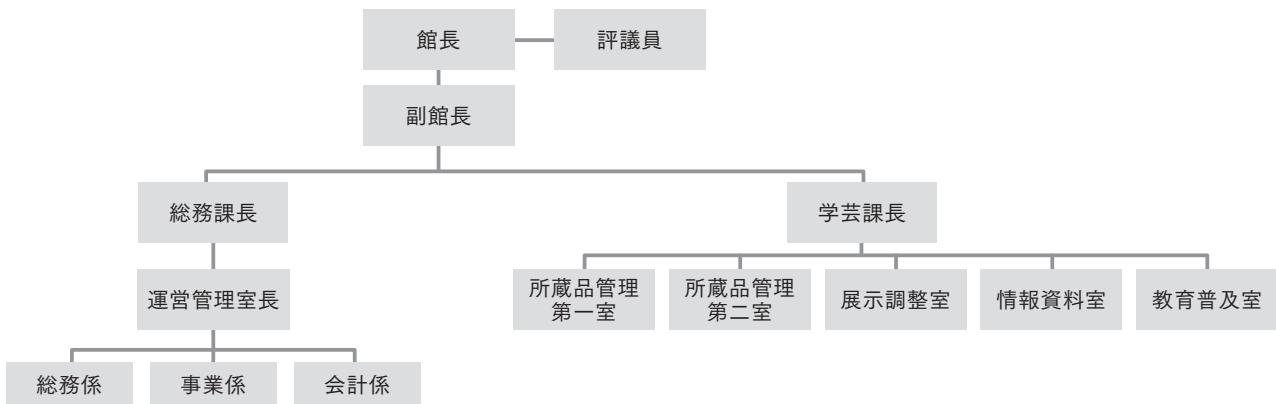
1996(平成8)年、行政改革の一環として、新たに独立行政法人制度が創設された。その結果、2001(平成13)年4月1日に独立行政法人国立美術館が発足し、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館とともに同法人に移行した。さらに2006(平成18)年4月1日、独立行政法人国立美術館は、特定独立行政法人(国家公務員型)から、それ以外の独立行政法人(非国家公務員型)に移行し、現在に至る。

## 略年譜

- 
- 1962(昭和37)年 4月1日 文部省設置法の一部を改正する法律(昭和37年法律第35号)施行。それにより国立近代美術館に分館を置くことが可能となる。京都市が岡崎公園内の勧業館別館を国に譲渡。
- 1963(昭和38)年 3月1日 国立近代美術館京都分館設置。分館長に今泉篤男(前国立近代美術館次長)が任命される。  
4月27日 開館記念展「現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向」開催。
- 1967(昭和42)年 6月1日 京都国立近代美術館として独立。
- 1968(昭和43)年 6月15日 文化庁設置により、同庁附属機関となる。
- 1969(昭和44)年 2月17日 館長今泉篤男が退官、後任として河北倫明(前東京国立近代美術館次長)が任命される。
- 1984(昭和59)年 2月19日 旧美術館建物の撤去工事及び新館建設工事開始。工事期間中(1984・1985年度)京都市美術館を会場に「バルチュス展」など8回の展覧会を開催。  
7月1日 文化庁の施設等機関となる。
- 1986(昭和61)年 4月1日 館長河北倫明が退官、後任として小倉忠夫(元京都国立近代美術館学芸課長・前国立国際美術館長)が任命される。  
9月15日 新館竣工。  
10月25日 新館開館記念竣工式挙行。  
10月26日 新館開館記念特別展「京都の日本画 1910~1930」開催。常設展示「近代の美術・工芸・写真」を開設。
- 1992(平成4)年 4月1日 館長小倉忠夫が退官、後任として富山秀男(前東京国立近代美術館次長)が任命される。
- 1993(平成5)年 3月2日 「創立30周年記念展Ⅰ:世界の工芸一所蔵作品による一」開催。  
4月27日 「創立30周年記念展Ⅱ:近代の美術一所蔵作品による一」開催。
- 1998(平成10)年 4月1日 館長富山秀男が退官、後任として内山武夫(元京都国立近代美術館学芸課長・前東京国立近代美術館次長)が任命される。  
12月9日 博物館相当施設に指定される。
- 2001(平成13)年 4月1日 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館の4館が統合し、独立行政法人国立美術館が発足。
- 2005(平成17)年 4月1日 館長内山武夫が退官、後任として辻村哲夫(東京国立近代美術館長兼務)が任命される。  
7月1日 館長辻村哲夫が退官、後任として岩城見一(前京都大学文学部教授)が任命される。
- 2006(平成18)年 4月1日 特定独立行政法人(国家公務員型)からそれ以外の独立行政法人(非国家公務員型)に移行。
- 2009(平成21)年 4月1日 館長岩城見一が退任、後任に尾崎正明(前東京国立近代美術館副館長)が任命される。
- 2013(平成25)年 3月16日 開館50周年記念特別展「交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術」開催。  
7月1日 館長尾崎正明が退任、後任として柳原正樹(前富山県水墨美術館長)が任命される。
- 2021(令和3)年 4月29日 館長柳原正樹が逝去。  
5月11日 後任として青木早苗(独立行政法人国立美術館理事兼務)が任命される。  
7月1日 館長青木早苗が退任、後任として福永治(前広島市現代美術館長)が任命される。
- 2023(令和5)年 4月27日 開館60周年アニバーサリー・デイならびに「開館60周年記念 Re:スタートライン 1963-1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館とアーティストの共感関係」展特別内覧会開催。

## II 組織

### 組織図



### 職員数

館長	1
副館長（学芸課長兼務）	1
総務課 課長	1
室長(係長兼務)	1
係長	2
主任	1
係員	4
研究員	1
補佐員	3
小計	13
学芸課 主任研究員	5
研究員	4
補佐員	6
小計	15
計	30

(2023(令和5)年4月1日現在)

### 評議員

青木 淳	京都市美術館長
上野 真知子	京都市立芸術大学特任教授
赤松 玉女	京都市立芸術大学理事長・学長
井上 章一	国際日本文化研究センター所長
清水 六兵衛	陶芸家
国谷 裕子	東京藝術大学理事
河本 信治	美術史家
白波瀬 誠	京都中央信用金庫理事長
箱崎 瞳昌	日本画家
古川 博規	京都府副知事
松本 伸之	京都国立博物館長
森迫 清貴	京都工芸纖維大学長
やなぎ みわ	美術家・演出家
山田 啓二	公益財団法人京都文化財団理事長・京都府京都文化博物館館長
吉田 良比呂	京都市副市長

(2023(令和5)年度／五十音順、敬称略)

## III 予算

自己収入(実績)	令和4年度	令和3年度
入場料収入	50,097	46,832
刊行物売扱	10,987	8,114
土地建物貸付料	8,210	7,508
特別観覧料	1,333	1,519
作品貸付料	79	57
寄附金(預り寄附金)	10,553	10,856
その他の	5,035	6,914
計	86,294	81,800

支出(当初予算)	令和5年度	令和4年度
美術振興事業	202,897	157,924
ナショナルコレクション形成・継承事業	118,234	78,622
ナショナルセンター事業	1,769	1,284
一般管理費	53,405	44,094
計	376,305	281,924

(単位:千円)

# IV 展示・研究活動

## 概説

### 企画展

3階企画展示室（1,157m<sup>2</sup>）を使い、近代美術を中心とした企画展を、年間に4～6回行っている。その主題は、国内外の重要作家の回顧展から、近代から現代にかけての芸術の動向を多様な視点から検証するものまでさまざまである。また、絵画・彫刻のみならず工芸、デザイン、ファッション、建築にいたる幅広いジャンルを視野におさめ、ときに複数のジャンルを横断的に取りあげる展覧会を積極的に開催している。展覧会によっては、1階ロビーや4階コレクション・ギャラリーの一部も会場として用いている。



「開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性」  
撮影：河田憲政

### キュレトリアル・スタディズ

2008(平成20)年4月から、定期的に行っている活動。各研究員が美術館活動を通じて抱いた問題意識を、テーマによっては外部の協力者やコレクションと協働し、その研究成果を、主にコレクション・ギャラリーの一部を用いた展覧会や、シンポジウムの開催、論文発表などのかたちで公表している。キュレトリアル・スタディズは、その成果が将来的な展覧会・研究活動の基礎として結実することを目指している。



「キュレトリアル・スタディズ15：八木一夫の写真」  
(2021(令和3)年度)

### コレクション展

4階コレクション・ギャラリー（1,128m<sup>2</sup>）を使い、美術館活動の根幹ともいえるコレクション展を年間に約5回行い、当館の所蔵作品・資料そして寄託作品を、多様な視点から幅広く紹介している。四季の移ろいを主題とした展示や、重要作家の周年展示、各研究員の研究成果を公開する特集展示、また3階企画展示室で開催されている展覧会と関連した主題の展示、さらには学習支援活動に係る展示も行い、将来的活動の展開に繋げるべく努めている。



「2022年度第5回コレクション展（前衛書）」

## 展覧会計画

展覧会名	開催期間	開催日数(日)	共催者
<b>企画展</b>			
リュイユーフィンランドのテキスタイル: トゥオマス・ソパネン・コレクション ※1	2023年1月28日～4月16日	14	
開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌— 絵画、演劇、映画を越境する個性 ※2	2月11日～4月9日	8	日本経済新聞社、京都新聞
開館60周年記念 Re:スタートライン 1963-1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館と アーティストの共感関係	4月28日～7月2日	57	京都新聞
開館60周年記念 走泥社再考 前衛陶芸が生まれた時代	7月19日～9月24日	59	京都新聞、関西テレビ放送
開館60周年記念 京都画壇の青春— 栖鳳、松園につづく新世代たち	10月13日～12月10日	51	NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、 読売新聞社
開館60周年記念 小林正和とその時代— ファイバーアート、その向こうへ	2024年1月6日～3月10日	56	

## コレクション展

第1回コレクション展	2023年4月21日～7月9日	68
第2回コレクション展	7月13日～10月1日	72
第3回コレクション展	10月5日～12月17日	64
第4回コレクション展	12月21日～2024年3月10日	64

※展覧会の名称、日程及び共催者は変更することがある。

※1 通算の開催日数は68日間

※2 通算の開催日数は50日間

## 展覧会実績

展覧会名	開催期間	開催日数(日)	共催者	総入場者数(人)	一日平均(人)
<b>2020年度</b>					
京のくらし —二十四節気を愉しむ	2020年7月23日～9月22日	54	NHK京都放送局、KBS京都、 京都新聞	13,082	242
人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン 交差する自由へのまなざし	10月13日～12月6日	48	文化庁、独立行政法人日本芸 術文化振興会、日本経済新聞 社、京都新聞	12,706	265
分離派建築会100年 建築は芸術か？	2021年1月6日～3月7日	53	朝日新聞社	12,999	245
第1回～第4回コレクション展 ～2021年3月7日	※2020年3月4日	241		47,890	199

※ 新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため2020年2月29日から5月25日まで臨時休館した。

## 2021年度

ピピロッティ・リスト:Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—	2021年4月6日～6月20日(※1)	52	京都新聞	21,025	404
モダンクラフトクロニクル —京都国立近代美術館コレクションより—	7月9日～8月22日(※2)	37	京都新聞	9,119	246
発見された日本の風景 美しかりし明治への旅	9月7日～10月31日	48	毎日新聞社、NHK京都放送局	17,614	367
上野リチ： ウイーンからきたデザイン・ファンタジー	11月16日～2022年1月16日	49	朝日新聞社、関西テレビ放送	36,122	737
新収蔵記念： 岸田劉生と森村・松方コレクション	1月29日～3月6日	32	毎日新聞社、京都新聞、 NHK京都放送局	19,322	604
サロン！雅と俗 —京の大家と知られざる大坂画壇	3月23日～5月8日	42	朝日新聞社	11,740	280
第1回～第5回コレクション展 ～2022年3月13日(※1・2)	2021年3月23日～ 2022年3月13日(※1・2)	281		83,060	296

(※1) 新型コロナウィルス感染拡大防止対策のため2021年4月25日から5月11日まで臨時休館した。

(※2) 館内設備の点検補修等のため2021年7月27日、7月28日は臨時休館した。

## 2022年度

MONDO 映画ポスター アートの最前線	2022年5月19日～7月18日	53	国立映画アーカイブ	50,606	955
没後50年 鎌木清方展	5月27日～7月10日	39	毎日新聞社、NHK京都放送局、 NHKエンタープライズ近畿	72,137	1,850
生誕100年 清水九兵衛／六兵衛	7月30日～9月25日	50	京都新聞	8,696	174
ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡— 市民が創った珠玉のコレクション	10月14日～2023年1月22日	84	ルートヴィヒ美術館、 日本経済新聞社、テレビ大阪、 BS-TBS、京都新聞	44,186	526

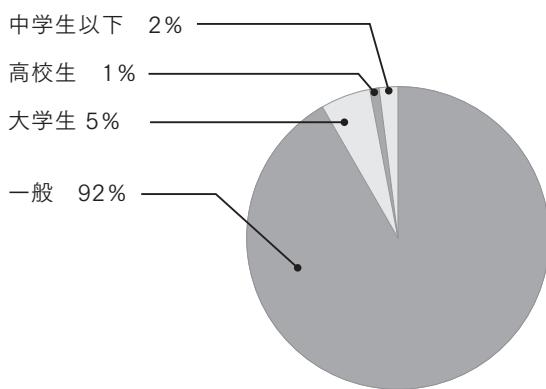
## 2022年度

リュイユーフィンランドのテキスタイル: トゥオマス・ソパネン・コレクション	2023年1月28日～4月16日	68	26,349	387
開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌— 絵画、演劇、映画を越境する個性	2月11日～4月9日	50	日本経済新聞社、京都新聞	23,909 478
第1回～第5回コレクション展		299		128,660 430

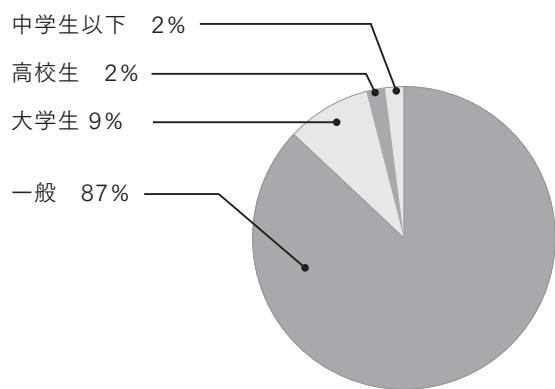
## 年度別入館者数

### 2022年度内訳

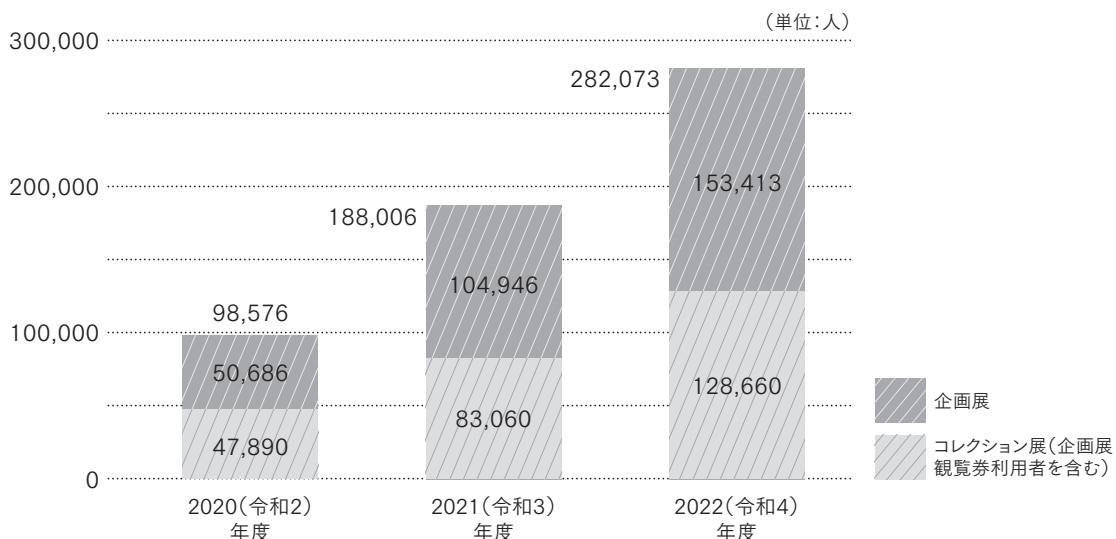
企画展



コレクション展(企画展観覧券利用者を含む)



### 2022年度まで3ヵ年分の推移



# V 所蔵美術作品等

## 美術作品及び美術資料の収集・保管

当館は次の方針に沿ってさまざまなジャンルの美術作品等を収集し、当館のみならず国内外の美術館活動に活かすべく努めている。

- ◎近現代の工芸全般、日本画、油彩画、版画、彫刻、写真など多様なジャンルの作品資料を収集し、将来における横断的美術史研究と総合的展観に資する体系的コレクションの形成に努める。
- ◎優れた女性作家の作品を積極的に収集し、美術館活動におけるジェンダーバランスの是正を目指す。
- ◎美術における京都を含む西日本の歴史的文化的重要性に鑑み、その地域性に立脚した作品や、世界の美術との影響関係の検証に不可欠な作品の収集に努める。
- ◎近／現代美術史の将来的検証に資する作品・資料を収集する。

## 所蔵作品数

種別	2022年度 収蔵点数			総点数
	購入	寄贈	計	
陶芸	58	17	75	1,776
金工	0	0	0	157
漆工	1	14	15	193
木工	0	0	0	60
竹工	0	6	6	13
ガラス	3	0	3	115
染織	5	18	23	709
人形	0	4	4	6
ジュエリー	0	0	0	101
日本画	3	33	36	1,171
油彩画	1	1	2	755
水彩画	0	0	0	354
素描	0	3	3	1,085
版画	10	0	10	3,070
彫刻	5	0	5	113
書	0	0	0	84
写真	0	0	0	1,969
その他	30	6	36	444
資料	4	11	15	1,081
計	120	113	233	13,256

## 特色あるコレクション

当館では、コレクターや作家の旧蔵作品や時代的特色をもつ作品群を「特色のあるコレクション」として一括収集している。

### 川勝コレクション

民藝運動の中心人物であり、陶磁器を中心とする制作活動に一生を捧げた河井寛次郎（1890 – 1966）の全貌を示す425点にもおよぶ作品群。河井の友人であり支援者でもあった川勝堅一（1892 – 1979）から寄贈されたもので、河井の初期から亡くなるまでの代表的な作品を網羅していることから、河井寛次郎研究の基準資料としての役割も担っている。

### 「明治の工芸」コレクション

帝室技芸員による優品を含む明治から大正初期にかけての工芸品169点からなるコレクション。2016（平成28）年から2018（平成30）年にかけて集中的に収集された。陶磁器、七宝、金工、漆工、染織、牙彫など多彩な技法・材質を用い、主に当時の殖産興業政策の下で国外への輸出を目的として製作された、いわゆる「輸出工芸」を中心とする貴重な作品群。

### 芝川照吉コレクション

毛織物商として栄えた大阪の芝川商店の東京支店に勤務しながら、若い洋画家・工芸家を支援した芝川照吉（1871 – 1923）が遺した約180点の作品・資料群。青木繁、岸田劉生、石井柏亭、坂本繁二郎、小川千麿などの絵画や素描とともに、藤井達吉、富本憲吉、バーナード・リーチ、河合卯之助などの工芸作品、さらには芝川旧蔵書のような関連資料をも含む。

### 長谷川潔の版画作品群

画家・版画家としてフランスで活躍した長谷川潔（1891 – 1980）自身が、愛蔵する自作から選りすぐった約180点の作品群。文芸同人誌の表紙や挿絵として制作された初期の貴重な木版画をはじめ、研究を重ねて再興させたマニエール・ノワール（メゾチント技法の一種）、ドライポイント、エッティング、アクアチントなど、多彩な技法に取り組んだ長谷川の創作の全足跡を辿ることができる。

### M&Yコレクション

戦後日本を代表する版画家の池田満寿夫（1934 – 1997）による、初期から晩年までの活動を網羅した約800点の作品群。池田と彼の長年にわたるパートナーであった佐藤陽子氏が運営していたM&Y事務所から2007（平成19）年に寄贈された。池田がデビューを飾った東京国際版画ビエンナーレなど、数々の国際展に出品された代表作に加え、初期の貴重な豆本などが含まれる。

### 井田照一の版画作品群

京都を拠点に活躍した版画家の井田照一（1941 – 2006）による約260点の作品群。2011（平成23）年にイダショウイチスタジオから一括で寄贈された。国内外で高い評価を受けた1960年代から70年代までのリトグラフやシルクスクリーン・プリントの代表作に加え、《Surface is the Between》の継続的シリーズ、アメリカの版画工房クラウンポイント・プレスで制作されたアクアチントの大作などを含む。

### 川西英コレクション

神戸を拠点に活動した版画家の川西英（1894 – 1965）が収集した約1,000点の作品・資料群。独学の川西が私淑し、文通もしていた竹久夢二の作品・資料がその3分の1を占める。恩地孝四郎、山本鼎、川上澄生などの創作版画のほか、村山知義、高見澤路直、ワルワーラ・ブブノワのような前衛芸術家の版画作品をも含む。

### 上野伊三郎・リーチコレクション

建築家上野伊三郎（1892 – 1972）と、その妻でウィーンに生まれ、ウィーン工房の一員としても活躍したデザイナーのリーチ（1893 – 1967：フェリーゼ・上野＝リックス）が遺した約700点の作品・資料群。夫妻が設立したインターナショナル・デザイン研究所の後身であるインター・アクト美術学校より2006（平成18）年に寄贈された。伊三郎による建築図面や、リーチによる数多くのデザイン画とそれらに基づく壁紙や七宝・テキスタイル、さらには伊三郎の蔵書のほか諸資料が含まれる。

## 「世紀末ウィーンのグラフィック」コレクション

アパレル会社「キャビン」の創業者平明暘・悦子夫妻旧蔵の、302件からなる「世紀末ウィーン」のグラフィック・コレクション。グスタフ・クリムトやエゴン・シーレの素描のほか、コロマン・モーザーやカール・モルなどウィーン分離派に参加した作家たちによる木版画やデザイン原画、雑誌『ヴェル・サクルム』や『ディ・フレッヒェ』などの図案集、各種装丁本が含まれる。1880年代から第一次世界大戦(1914 – 1918)にいたる世紀転換期のウィーンにおけるグラフィックの動向を俯瞰しうる稀有なコレクション。

## アーノルド・ギルバート・コレクション

アメリカ合衆国シカゴ在住のアーノルド・ギルバート夫妻が約20年をかけて収集した1050点の写真作品群。1986(昭和61)年に京セラ株式会社から寄贈された。アンセル・アダムス、カルティエ=ブレッソン、エドワード・ウェストンなど近代写真史を彩る巨匠の代表作を数多く含み、それらのほとんどが写真家自身の焼付によるオリジナル・プリントである点で貴重なコレクション。

## 野島康三の写真作品群

日本の近代写真におけるピクトリアリズムを代表する写真家の野島康三(1889 – 1964)による活動の全貌を伝え約260点からなる作品・資料群。野島康三遺作保存会から寄贈された。プロムオイル印画(プリント)などの古典技法による貴重なオリジナル・プリントや、ドイツ新興写真に触発された銀塩写真(ゼラチン・シルバー・プリント)のほか、岸田劉生や富本憲吉など同時代の芸術家のために自邸で開催した展覧会の記録写真などの関連資料をも含む。

## アイリーン・スミス・コレクション

フォト・ジャーナリズムの歴史に偉大な足跡を残したアメリカ人写真家のW.ユージン・スミス(1918 – 1978)による、『第二次世界大戦』から『水俣』まで、グラフ雑誌『ライフ』に掲載されたフォト・エッセイの代表的シリーズをほぼ網羅した約280点からなる作品群。これらはすべて、『水俣』の取材パートナーであったアイリーン・美緒子・スミス氏が厳選し、保管していたものである。

## 八木一夫の作品群

前衛陶芸家集団「走泥社」の実質的なリーダーとして戦後の日本の陶芸界を牽引し、国際的にも高く評価される作家である八木一夫(1918-1979)の作品群。約126点からなるこのコレクションの半数以上が、遺族が大切に保管していた作品群に由来する。オブジェ焼きの記念碑的作品《ザムザ氏の散歩》(1954年)をはじめ、初期から晩年にいたる陶芸作品を網羅的に含み、ブロンズやガラスといった異素材作品、ドローイングや版画も併せて、作家の創造の軌跡を包括的に研究・紹介するため必須のコレクション。

## 図書資料ほかの収集

近/現代美術を中心とした国内外の図書や展覧会図録のほか、過去に開催した展覧会の資料、所蔵作品の写真やネガ、フィルム・映像データ類、新聞切抜など、美術史研究のみならず、美術館活動に関する将来的検証・研究に資する資料を収集・保管している。

### 国内出版物 (2023(令和5)年3月31日現在)

(単位:冊)

	購入	寄贈	計
令和3年度以前	5,022	26,401	31,423
令和4年度	54	1,181	1,235
累 計	5,076	27,582	32,658

### 洋書 (2023(令和5)年3月31日現在)

(単位:冊)

	購入	寄贈	計
令和2年度以前	1,543	2,676	4,219
令和3年度	22	106	128
累 計	1,565	2,782	4,347

# VI 教育普及事業等

## 学習支援プログラム

### 美術館活用プログラム及び各種教員研修への支援

学校による美術館を活用した学習や研究を積極的に支援している。また、美術鑑賞教育の実践にあたる人材の育成や地域における学校と美術館の連携を目的として、京都市教育委員会などとの共催による「図画工作科・美術科夏季連携講座」などを開催している。

### 児童生徒や親子を対象とした鑑賞への支援

各企画展やコレクション展にあわせて、ワークショップの開催や鑑賞ガイドの製作など独自の活動を行っている。そのほか、教育現場の教員と連携を図るなど、鑑賞学習の活動を隨時実施している。

### ユニバーサルな鑑賞プログラム

手で触れる、音を聴くなどさまざまな感覚を用いて作品を体験したり、参加者同士が対話したりしながら鑑賞を深めるなど、「目で見る」ことだけにとらわれない美術鑑賞プログラムを隨時行っている。その際、当館が中核となって文化庁からの補助金交付を受け実行委員会を組織し、大学や盲学校などと連携することで、充実化を図っている。

### インターンシップ制度

当館では、将来の美術館活動全体の活性化に寄与することを目的とし、インターンシップの実習生を受け入れている。2022年度は学芸課で大学院生1名のキュレトリアル・インターンシップ実習生を受け入れ、学芸業務や普及事業などに従事いただいた。

## 普及プログラム

### 講演会などの開催

各企画展やキュレトリアル・スタディズの主題にあわせた講演会・ギャラリートークを会期中に開催し、YouTubeやInstagramで配信を行っている。また、学会や大学などと協働したシンポジウムや研究会、講演会も隨時行っている。

### MoMAK Films

国立映画アーカイブ（NFAJ）が所蔵する約8万本におよぶ内外の映画・ドキュメンタリーフィルムから、企画展に関連するトピックや、そのほかさまざまなテーマに基づいて選んだ作品を中心に上映する、NFAJと共に「MoMAK Films」を、年間4回開催している。

### 地域の各種団体や機関との相互協力によるプログラム

京都市立芸術大学との共催による「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を定期的に開催しているほか、「ニュイ・ブランシェKyoto」など地域の文化行事にもさまざまな形で協力している。また、各展覧会にちなんだイベントも適宜開催している。

## 刊行物等

### 美術館ニュース『見る』

展覧会の開催にあわせたエッセイやレビュー、そのほか所蔵品紹介やリレーコラムなどを掲載した、無料配布のニュース冊子を隔月で発行している。

### 京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』

当館研究員に加え館外の共同研究者による調査・研究成果の発表や、キュレトリアル・スタディズさらには館内で開催したシンポジウムや学習支援プログラムの報告・記録などを掲載している。掲載される「論文」と「研究ノート」には査読制度を設けており、およそ一年半に一度のペースでの刊行を目指している。

### 展覧会図録と所蔵品目録

各企画展において、共催者と協力しつつ、展覧会図録を刊行している。また、所蔵作品ならびに「特色あるコレクション」を紹介する『所蔵作品目録 I～XIII』、および日本画や油彩画(洋画)などの所蔵名品集を刊行している。

### 作品・音声ガイド

コレクション展では、多言語で作成した作品リストを無料配布すると同時に、同じく多言語でアプリ「カタログポケット」を用いた作品解説の音声ガイドを提供している。※本年度は日英の2カ国語の対応

## サポート・プログラム

### 賛助会員制度

当館の諸活動に対し幅広く支援・支持いただける法人及び個人の方々を会員とする賛助会員制度を設けている。令和5年4月より新たに個人会員を設け、現在は特別会員、一般会員、個人会員の3種類があり、会員種別ごとにさまざまな特典を用意している。

特別会員：株式会社木下グループ

一般会員：株式会社ワコール、京都中央信用金庫、ほか1社1名（2023(令和5)年度4月1日現在）

### OKパスポート

令和3年4月より、近畿地方の2つの国立美術館＝国立国際美術館(Osaka)／京都国立近代美術館(Kyoto)に関心をもつ方々に、より一層美術館に親しんでいただけるものとして、新たに2種類の年間パスポート(上記2館の各企画展を無料又は割引で観覧できる「OKミュージアムパスポート」と、上記2館の各コレクション展を無料で観覧できる「OKコレクションパスポート」)の販売を開始した。

### キャンパスメンバーズ

独立行政法人国立美術館が提案する、大学・短期大学・高等専門学校などを対象とした会員制度。会員校の学生及び教職員の方々は、独立行政法人国立美術館に属する全国7施設(東京国立近代美術館／国立工芸館・京都国立近代美術館・国立映画アーカイブ・国立西洋美術館・国立国際美術館・国立新美術館)の展覧会などを無料又は割引料金で何度でも観覧することができる。

# VII 施設

## 土地

当館は京都市中央部の東方にある岡崎公園の一隅に、琵琶湖疏水に面して位置している。この公園は東山に近く、東に南禅寺・永觀堂、南に青蓮院・知恩院があり、北に向かっては聖護院そして京都大学が連なる。公園内には平安神宮のほか、京都府立図書館、ロームシアター京都、京都市京セラ美術館、京都市動物園等の諸文化施設がある。

位置 京都市左京区岡崎円勝寺町26-1

地域・地区 第2種住居地域、第2種高度地区、  
風致地区第5種、岡崎公園地区特別修景地域

敷地面積 5,000.6m<sup>2</sup>

## 建物

当館の建物は、プリツカー賞や国際建築家連合ゴールドメダルを受賞した世界的に著名な建築家・槇文彦の設計により、1986(昭和61)年に竣工した。風致地区かつ岡崎公園地区特別修景地域に位置することから、建物の高さは隣接する平安神宮大鳥居の高さ以下に抑えられ、京都の街や平安神宮を軸とした岡崎公園に見られる左右対称な平面プランに呼応するように、ポルトガル産の花崗岩によるグリッドが施された外壁や対称性をもつ正面デザインを持つ。

構造規模： 鉄骨鉄筋コンクリート造

[外壁GPC版／支持スタッド鉄骨造]

地上4階・地下1階建

建物高さ： 22.2 m

延床面積： 9,983.44m<sup>2</sup>

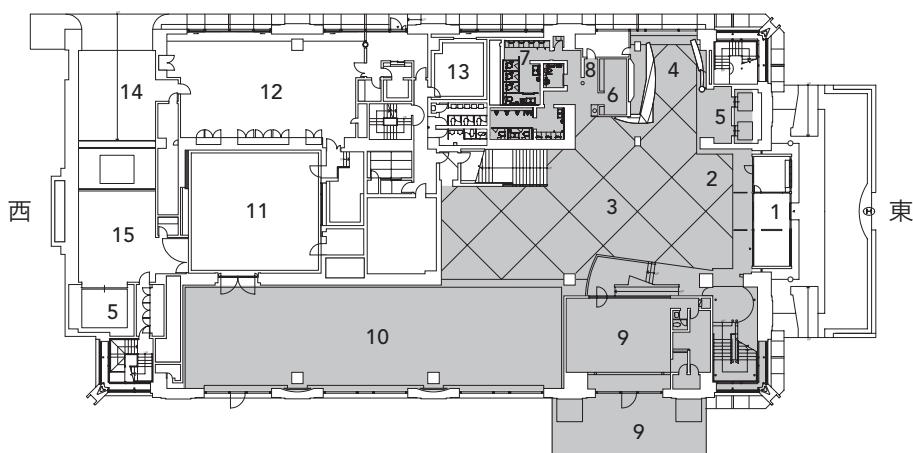
各階延床(m <sup>2</sup> )		主要室内訳(m <sup>2</sup> )	
地階	3,159.40	収蔵庫 機械室等	1,176.70 1,378.18
1階	2,155.68	事務室 講堂 展示ロビー	138.60 137.00 320.08
2階	828.11	事務室	272.28
3階	1,863.07	企画展示室	1,156.76
4階	1,900.68	コレクション・ギャラリー	1,128.10
屋階	76.50	機械室	76.50



撮影：四方邦熙

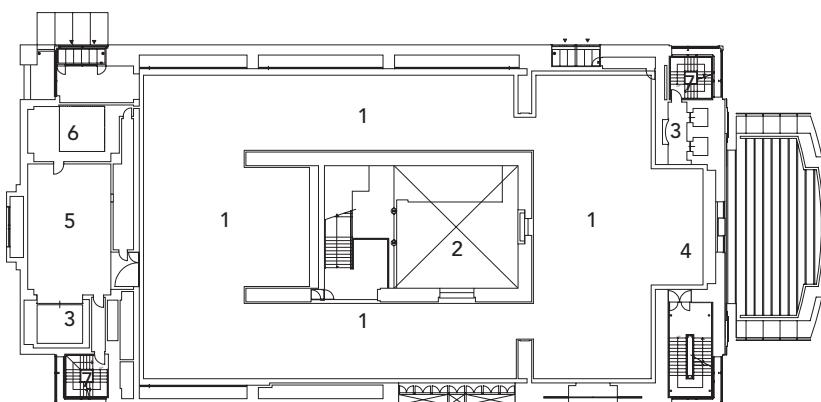
## 建物の概要

1階には、2階の面積を抑えることで可能となった、高い天井のエントランスホールやロビーが設けられている。エントランスを入って正面にある大階段は、3階企画展示室入口につながり、その天井には太陽光が入るトップライトが設置されている。エントランス奥の、疏水を臨める大きなガラス窓が連続するロビーは、通常来館者が自由に出入りできるフリーゾーンだが、展覧会開会式などの催事や、ときに作品の展示にも用いられる。ロビー奥には講演会や上映会に利用する講堂が位置するほか、1階にはミュージアムショップ及びカフェがある。3階が企画展示室、4階がコレクション・ギャラリーとなっている。4階の東側には大きな窓が設えられており、フリーゾーンであるその場所からは、平安神宮大鳥居の背後に広がる東山のパノラマを楽しむことができる。



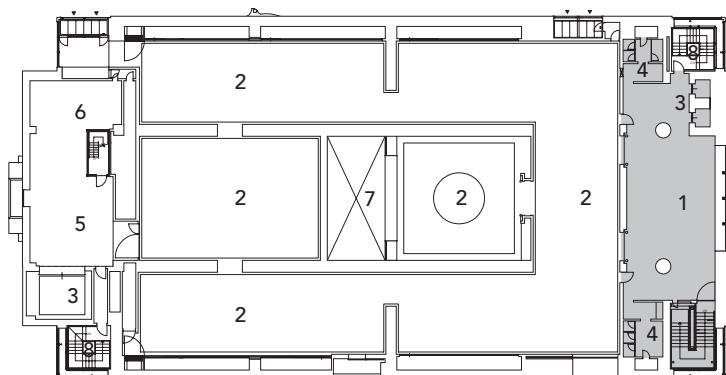
1階平面図

- 1 出入口
- 2 受付
- 3 エントランスホール
- 4 ミュージアム・ショップ
- 5 エレベーター
- 6 コインロッカー
- 7 化粧室
- 8 授乳室
- 9 カフェ、テラス
- 10 ロビー
- 11 講堂
- 12 総務課
- 13 会議室
- 14 搬入口
- 15 荷卸室
- グレーの影部分: フリーゾーン



3階平面図

- 1 企画展示室
- 2 吹抜
- 3 エレベーター
- 4 出口
- 5 準備室
- 6 倉庫(可動パネル22枚収納)
- 7 避難階段



4階平面図

- 1 ロビー
- 2 コレクション・ギャラリー
- 3 エレベーター
- 4 化粧室
- 5 準備室
- 6 倉庫
- 7 吹抜
- 8 避難階段
- グレーの影部分: フリーゾーン

# VIII 案内

## 開館時間

### 開館時間

通常時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

夜間開館 毎週金曜日は午後8時（入館は午後7時30分）まで（企画展会期中のみ）

※ カフェ、ミュージアムショップの営業時間も、美術館開館時間に準じる。

※ 開館時間は変更することがある。

### 休館日

月曜日 [月曜日が祝休日にあたる場合は、その翌日] 及び年末年始

※ そのほか館内の作品展示替などのために、臨時に休館することがある。

### 観覧料

#### 企画展

展覧会ごとにその都度定める。

#### コレクション展

通常料金:一般 430円／大学生 130円／高校生以下及び18歳未満 無料

団体料金(20名以上):一般 220円／大学生 70円／高校生以下及び18歳未満 無料

※ 2023(令和5)年4月1日現在

※ 満65歳以上の方、心身に障がいがある方と付添者1名は無料（要証明書類）

### コレクション展無料観覧日

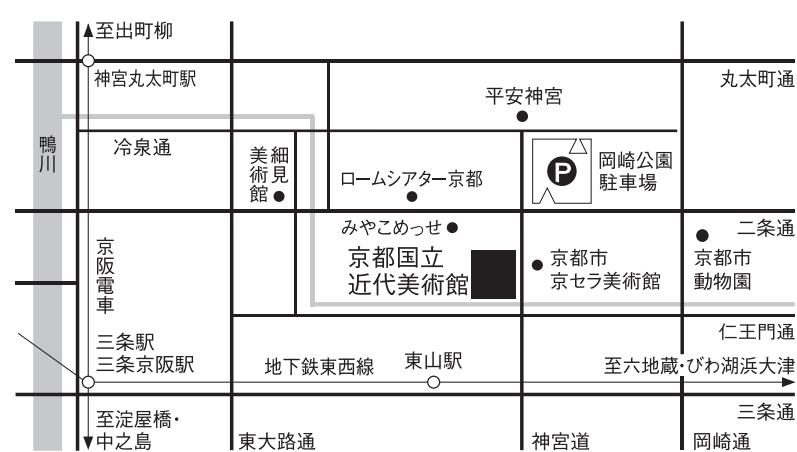
コレクション展のみ開催中の土曜日、文化の日（11月3日）及び関西文化の日

### 所在地

京都市左京区岡崎円勝寺町26-1



撮影:河田憲政



### JR・近鉄～バス

- ▶JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5系統  
銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

### 阪急・京阪～バス

- ▶阪急烏丸駅・京都河原町駅、京阪三条駅から市バス5系統  
銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- ▶阪急烏丸駅・京都河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46系統  
祇園・平安神宮行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

### 市バス他系統

- ▶「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分
- ▶「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約10分

### 地下鉄

- ▶地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

※当館には駐車場がないため、近隣の有料駐車場施設のご利用をお願いします。岡崎公園駐車場利用の有料入館者については、駐車場の割引(1台につき1回、バス・二輪車を除く)が受けられます。

### お問合せ

TEL 075-761-4111  
FAX 075-771-5792

### ホームページなど

<https://www.momak.go.jp/>  
Instagram @momakyoto  
Facebook 京都国立近代美術館 (@momak.go.jp)  
YouTube 京都国立近代美術館 The National Museum of Modern Art, Kyoto

M O M A K

2023

Independent Administrative Institution  
National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Kyoto

独立行政法人国立美術館  
**京都国立近代美術館概要**

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町26-1  
電話 075-761-4111  
FAX 075-771-5792  
<https://www.momak.go.jp/>